

# 冬来たりなば、春遠からじ!

同窓会会長 有田 和男 (31回)

**\* はじめに・・・**

2009年、新しい年を迎えました。昨年から世界を席卷する未曾有の経済危機に遭遇し、我が国は何らの的確な対策をも打つことなく、弱者にはより厳しい年に突入したように思えます。

この正月は、新聞・書籍を読み、テレビなどを見ながら、何を信じ何に期待すべきか、これだとの方向も見いだせぬまま過ごしました。一方、世界同時恐慌の本元である米国を見れば、オバマ新大統領の就任に沸き返り、その「変化」に大きな希望と期待への渦が巻き揚がっています。その訳された就任演説を読み、米国民が世界の大変革に対応できる新しい指導者を得て、まだ未知数とはいえ国家再生への道を歩み始めたことを知り、このことに今ほど羨望の思いを感じたことはありません。

翻って我が国を考えれば、何時頃から誰に飼い馴らされたのか、国家権力の惰性に流されるまま等閑視する風潮に慣れ、これに抵抗する気概が乏しくなったように思えます。これは、将来への展望を疎かにし、好景気時に安易を貪った、国民一人一人（政治家と云いたいところですが）の責任ではなからうか。私自身も、米国民を羨むことなく厳しく自戒したいと考えています。

我々は戦後の荒廃した焼け跡の中から、逞しく復興を成し遂げました。その後の数々の経済不況も乗り越えてきました。「いざ」と言う時の潜在能力と底力は抜群のものを持っています。「埋もれ木」に花が咲くとも云います。何も「英雄待望論」ではありませんが、日本再生を担う隠れた人材の輩出を切望します。それが甲陽生であれば、なお胸が踊るのですが・・・

シェリーの「西風に寄せる歌」に“冬来りなば春遠からじ”の詩句があります。暖かい春が必ず来ることを信じて、一陽来復の天を待つ心境になりたいものです。

**\* 同窓会費の改定について・・・**

平成20年 4 月 28 日に開催の役員総会において、平成21年 4 月 1 日から同窓会費（年会費）の改定が決定されました。これは創立100周年に向けて、予てからの懸案となっていました同窓会財政の安定化・健全化を目指してのことです。

現在の同窓会財政は、皆様方のご理解とご協力により、阪神大震災当時の赤字財政から脱却し、お蔭様で安定・健全な方向に進んでおります。しかし、昨今の社会・経済情勢の急激な変化に対処すべく、更なる将来財政の見

直しと予測を行い、不測の事態に備え同窓会費の改定をさせて頂くことになりました。

改定の年会費は、猶予期間を置きまして平成21年度からとなります。従前からの特典をご活用されて、この3月末日までに毎年の年会費納付から、終身会費への切り替え納付をお願いをしたく存じます。なお、今後とも一層の経費節減の追求と、将来を見据えて、会務の合理化と同窓会の活性化を進めて参ります。

**\* 会員名簿について・・・**

同窓会名簿は、今まで4回ほど5年毎に発刊してきました。本年が準備期間を含めて発刊の時期に当たります。昨年からの時代の趨勢を見ながら、この状況の中で会員名簿を発刊できるかどうか、各委員会で議論し理事会にも問題を投げ掛けてきました。理事・評議員の方々に会員名簿についてのアンケートも行いました。大半は発刊すべきであろうとのご意見でした。当然、同窓会としての存在意義を考えれば、会員名簿は継続して発刊すべきと考えます。一方、個人情報保護法の関係から、個人情報の流出を懸念して守勢のご意見も寄せられています。これに加え昨今の経済状況です。名簿の発刊資金は、企業広告収入が主な原資となっています。現在の置かれています一般経済状況では、悲観的にならざるを得ません。

よって、今しばらく推移する諸般の状況を見極めながら、創立95周年にあたる平成24年を目指して、会員名簿発刊への準備を進めて参りたいと考えます。

**\* 自分に思うこと・・・**

今年は丑年、学生時代に愛読した、高村光太郎の詩集“道程”の一節に「牛はのろのろと歩く、牛は野でも山でも道でも川でも、自分の行きたいところへは、まっすぐに行く」とあります。歩みはのろくとも、人生の目標へ着実に歩み進みたいものです。



発行所  
〒662-0096 西宮市角石町3-138  
甲陽学院同窓会  
発行人 有田和男

印刷所  
株式会社 小西印刷所  
西宮市今津西浜町2番60号  
TEL (0798)-33-0691

同窓会事務局専用  
TEL 0798-71-4888  
(月・水・木 10:00~16:00)  
FAX 0798-71-4890  
E-mail :  
fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp  
同窓会公式ホームページ  
<http://www.koyogakuin-oba.jp>



白鹿クラシックス  
Hakushika Classics

西宮市鞆町(礼場前・臨港線交差点)  
■定休日/火曜日

レストラン&カフェ  
AM11:00~PM10:00  
(ラストオーダー PM9:00)  
明治時代の酒蔵を  
シック&カジュアルな和空間に。  
0798-35-0001

ミュージアムショップ  
AM10:00~PM7:00  
歳元ならではの、  
お酒にまつわるアイテムが大充実。  
0798-35-0286

酒ミュージアム  
白鹿記念酒造博物館  
AM10:00~PM5:00  
(入館は4時30分まで)  
日本固有の文化「酒づくろ」を未来へ伝承  
0798-33-0008

# 会 務 報 告

平成20年11月28日に行われました同窓会理事会における議論を中心に、会務についてご報告いたします。

## 1 会報編集委員会

第78号を平成20年7月15日付で発行。紙面は、巻頭言・新役員一覧・ファンド関係・学校だより（退職の先生方、中学校新食堂、中学校校外学習、創立記念音楽会、高校体育祭）・リレー随筆・同窓会費改定のお知らせ・会員総会案内などでした。

## 2 会員総会運営委員会

平成20年8月23日（土）の午後2時半から6時まで、ノホテル甲子園におきまして、恒例の夏の会員総会を挙行しました。今回は「これからの社会を考え、カントリーウエスタンに酔う」と題して、ゲストスピーカーに検事総長の樋渡利秋氏（45回）をお招きし、また第2部には母校を定年退職されたばかりの静先生率いるフルハウスの皆様にかントリーウエスタンの演奏をお願いしました。

樋渡氏は、丸坊主・白風呂敷だった中学時代の思い出から講演を始められ、甲陽の先生は大らかで素晴らしい方が多く、のびのびと過ごせたと振り返られました。その後、お仕事の話へ移り、司法制度改革審議会の事務局長として裁判員制度への道筋をつけられたこと、検察の仕事の国際比較、日本の治安状況、厳罰化を求める世論と刑務所の運営・教育などについてお話になり、最後に裁判員制度実施を目前にして世間で心配される点について丁寧に解説をしていただきました。

ご講演の後、河内厚郎氏（52回）とのミニ対談、会場から4名の質問があって、1時間半にわたる講演会となりました。

第2部は、会場を2階「甲陽の間」に移して親睦会。開演前から静先生チームによるカントリーウエスタンの生演奏に酔い、乾杯後は懐かしい恩師の先生方や友人との会話、白鹿の美酒とサントリービールに酔いました。

会全体をNHKアナウンサー真下貴氏（69回）にプロの技で進行していただき、ホームカミングデーの39回、54回、64回の皆さんの紹介などもあって、なごやかに夏の土曜の昼下がりを過ごすことができました。

当日の参加者は約260名でした。

## 3 甲陽ファンド管理委員会

本格的にファンド委員会が発足してから4年目、在校生への支給を始めてから3年目を迎えます。

1年目は34回生が、2年目は35回生と37回生が、3年目は36回生と38回生が、それぞれ中心となって募金

活動を行ってきました。平成20年は、39回生が中心となり、夏の会員総会での「ホームカミング」と関連付けた企画で募金活動を行いました。その成果として、夏の総会の日には39回生一同として120万円の醸金を披露することができました。

在校生へは、今年度各学年1名と緊急採用1名の合計7名に奨学金を給付しています。1名につき年間20万円です。

これまでに集まった醸金は約4千万円で、平成20年度は4月から10月までで約570万円です。

## 4 会務運営委員会

最新の会員名簿は平成15年に発行されたものです。次回の会員名簿の発行について、個人情報保護や発行経費の観点から議論をしました。結論的には巻頭言で会長が述べられているとおり、創立95周年を迎える平成24年の発行を目指す方向で4月の役員総会に諮ることになりました。

### ● 終身会費・各回別納付金額設定表 ●

（平成21年3月31日まで）

回 生	金 額	回 生	金 額	回 生	金 額
1回	10,000	34回	10,000	67回	26,500
2回	10,000	35回	10,500	68回	27,000
3回	10,000	36回	11,000	69回	27,500
4回	10,000	37回	11,500	70回	28,000
5回	10,000	38回	12,000	71回	28,500
6回	10,000	39回	12,500	72回	29,000
7回	10,000	40回	13,000	73回	29,500
8回	10,000	41回	13,500	74回	30,000
9回	10,000	42回	14,000	75回	30,000
10回	10,000	43回	14,500	76回	30,000
11回	10,000	44回	15,000	77回	30,000
12回	10,000	45回	15,500	78回	30,000
13回	10,000	46回	16,000	79回	30,000
14回	10,000	47回	16,500	80回	30,000
15回	10,000	48回	17,000	81回	30,000
16回	10,000	49回	17,500	82回	30,000
17回	10,000	50回	18,000	83回	30,000
18回	10,000	51回	18,500	84回	30,000
19回	10,000	52回	19,000	85回	29,000
20回	10,000	53回	19,500	86回	28,000
21回	10,000	54回	20,000	87回	27,000
22回	10,000	55回	20,500	88回	26,000
23回	10,000	56回	21,000	89回	25,000
24回	10,000	57回	21,500	高商・1	10,000
25回	10,000	58回	22,000	高商・2	10,000
26回	10,000	59回	22,500	高商・3	10,000
27回	10,000	60回	23,000	高商・4	10,000
28回	10,000	61回	23,500	機械・1	10,000
29回	10,000	62回	24,000	機械・2	10,000
30回	10,000	63回	24,500	造船・1	10,000
31回	10,000	64回	25,000	造船・2	10,000
32回	10,000	65回	25,500	工業・1	10,000
33回	10,000	66回	26,000		

※83～89回は前納年会費以外に上記の金額となります。

（単位：円）

# 同窓会費改定のお知らせ (平成21年4月より)

平成20年 4 月28日に行われました役員総会において、次年度からの同窓会費改定が決定されました。創立100周年 (平成29年) に向けて同窓会財政の安定化・健全化をはかることが、その目的です。会費の改定は次の通りです。

- (1)年会費は2000円とする (現行1000円)。
- (2)入会金は6000円とする (現行3000円)。
- (3)終身会費は右の別表の通りとする。
- (4)新制度は平成21年 4 月 1 日から実施する。

なお、これにともなって従前からの特典 (新終身会費への切り替え促進策) の廃止は平成21年 3 月まで延期されます。

現行の終身会費の金額表はP. 2 の通りです。これが今年 4 月より右の表に改定されますので、お早目に終身会費に切り替えられることをお勧めします。

**[改定] 終身会費納付額設定表 (平成21年4月1日~平成22年3月31日)**

90回~84回	30,000円	70回	37,000円	56回	23,000円
83回	50,000円	69回	36,000円	55回	22,000円
82回	49,000円	68回	35,000円	54回	21,000円
81回	48,000円	67回	34,000円	53回	20,000円
80回	47,000円	66回	33,000円	52回	19,000円
79回	46,000円	65回	32,000円	51回	18,000円
78回	45,000円	64回	31,000円	50回	17,000円
77回	44,000円	63回	30,000円	49回	16,000円
76回	43,000円	62回	29,000円	48回	15,000円
75回	42,000円	61回	28,000円	47回	14,000円
74回	41,000円	60回	27,000円	46回	13,000円
73回	40,000円	59回	26,000円	45回	12,000円
72回	39,000円	58回	25,000円	44回	11,000円
71回	38,000円	57回	24,000円	43回~	10,000円

\*平成22年度以降は、この設定表を1年分ずつスライドさせていく。

## ■ あて名ラベルの記号の見方

既に年会費をお納めの方や終身会費をお納めの方には失礼ですが、今回も振り込み用紙を同封しております。未納の方は、よろしくお納め下さい。

平成21年 1 月31日現在での同窓会費の納入状況をご案内しています。

例：終身会員H11年度 ←

♪	卒	1	1	1	1	1	0	0	終
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

① 上段には、前納の年度、または、終身会費をお支払い頂いた年度を示しています。その他の場合、この表示はありません。

② 下段には左から順に、平成元年度、2 年度、…17年度の年会費のお支払い状況を示しています。

### ▼記号の意味

1	当該年度分の年会費を納入済	終	当該年度に終身会費を納入	♪	甲陽学院に在籍
0	未納			卒	その年の 3 月に卒業

従いまして、**下段に含まれる0の個数 × 1000円**が、未納の年会費となります。同封の振り込み用紙にてお支払いください。

★H元年以降に御卒業の方は、卒業時から7年分の年会費を予めお納め頂いております。次の二つの例をご参照下さい。

♪	♪	卒	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

H10以降は未納です。未納分をお納め下さい。

### H15年分まで納付

♪	♪	♪	♪	♪	♪	卒	1	1	1	1	1	1
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

H8年3月に御卒業、さらに1年分の年会費を頂いたため、H15年度まで納付しておられます。

④尚、年会費を納められるとき「何年度分」と指定されても、過去分が未納の場合、そちらへ充当させていただいております。また不明の場合は、事務局までお問い合わせ下さい。

## ☆「ノホテル甲子園」の優待券 ☆

甲陽学院同窓会会員用に「宿泊15%割引」「レストラン&バー10%割引」の優待券を発行していただいています。2010年12月30日までの優待券が事務局にございますので、ご希望の方は、お手数ですが、事務局までお電話・FAX・Eメールにてご請求ください。

## == 予告 ==

今年、平成21年度の会員総会は、8月の最終土曜日にあたる 8 月29日に予定しています。詳細は次号「甲陽だより」にてご案内いたします。

学校だより

# 甲関戦 史上初の2連覇達成!

2008年9月12日、関西学院中学校にて関西学院中との交歓競技会、いわゆる甲関戦が行われました。今年で56回目を迎えるこの大会で、甲陽学院は昨年12年ぶりの総合優勝を果たし、対戦成績を10勝38敗7分けとしました。グラウンドで行われた開会式の後、午前中の競技が開始されました。体育館で行われた卓球では接戦の末、5対4で勝利。またバスケットボールでは終了間際に逆転し39対37で甲陽が接戦をものにしました。テニスとサッカーは惜しくも敗れましたが、陸上競技では1年生のリレーで大会タイ記録が出るなどして、関学に勝利! 午前の競技を終えた段階で3勝2敗と甲陽が優勢となりました。

史上初の連覇へ向けて緊張感が高まる中、午後の競技が始まりました。水泳は善戦するものの勝ちを逃してしまいましたが、剣道は2年生の活躍もあって3勝1敗1分けで勝利し、バレーボールも甲陽が2セットを連取して勝利を取めました。野球は初回の得点を守

り抜き、4-3で13年ぶりに勝ちました。この結果、甲陽は総合成績6勝3敗で大会史上初の2連覇を達成しました。お互いの健闘をたたえ合った閉会式の後、連覇にわき上がる生徒たちは、昨年と同じく校長から翌日を休みにするというご褒美にも大喜びしていました。来年度の大会は本学院で行われます。ホームグラウンドでの三連覇を目標により一層練習に打ち込んでくれるものと期待しています。



(右写真)  
関西学院の安田中学校部長から優勝楯を受けとる甲陽学院応援団長の塩見純史君

学校だより

## 中学校 運動部の活躍

各部とも3年生(93回生)の選手を中心としたチームによる甲関戦勝利の興奮もさめやらぬ9月に、運動部では2年生(94回生)を中心とした新チームによる新人大会が始まります。本年度はこの大会で各部ともすばらしい戦果を残しましたのでお知らせします。

現在中学では10の運動部が活動中です。新人戦は9月13日の野球部の試合を皮切りに各部ともそれぞれに懸命な戦いを繰り広げましたが、中でもバレー部、サッカー部、剣道部の活躍は特筆すべきものでした。まずバレー部は前評判通り市内大会を優勝し、阪神大会に駒を進めました。ここでも実力を遺憾なく発揮して見事準優勝を飾り、県大会への出場を決めました。県大会では惜しくも敗れましたが、長いバレー部の歴史でも燦然と輝く成績を残しました。またサッカー部は参加校が20校を超える市内大会の頂点に立ちました。競技人口の多い人気スポーツであるサッカーでは実力があってもなかなか勝ち上がることは難しく、こちらも快挙と言えるでしょう。予選リーグから決勝トーナメントまで失点無く勝ち上がる鉄壁のディフェンス力を見せて、安定した試合ぶりでした。剣道部は高校生の活躍も伝えられていますが中学剣士も大活躍です。団体では市内大会を3位で通過し、阪神大会では見事にリベンジを果たして優勝を遂げました。個々の実力もちろんですが剣士それぞれが自分の役割を果たしたチームワークの勝利と言えるでしょう。個人でも市内大会優勝、阪神大会では準優勝を飾り、その実力を見せつけました。県大会においても団体戦ベスト16、個人戦ベスト8の活躍でした。

個人においてはその他にも陸上の走り幅跳びでの市内での優勝などもあり、他のクラブの活躍をここに紹介しきれず残念です。詳しくは、甲陽学院中学のホームページのクラブ紹介のページにも掲載されていますのでご覧いただければと思います。

学校だより

## 高等学校 剣道部の活躍

今回、第55回兵庫県高等学校新人剣道大会において、甲陽学院は3位に入賞することができました。そして、第2回近畿高等学校剣道選抜大会の出場権を獲得しました。これは、甲陽学院剣道部始まって以来の快挙です。これも、今まで先輩方が培ってきた伝統とその成果の賜だと思えます。

県大会では、1回戦から厳しい試合展開となりましたが、何とか勝利し、2回戦、3回戦と順調に勝ち進んでいきました。4回戦で初めてシード校とあたりましたが、2対1で勝利し、とうとう準々決勝になりました。ここでの相手は第一シード校である滝川第二高校で、県内屈指の強豪校です。副将までの4人がしっかりとつないでくれた上に、会場にいた他の学校からの声援もあり、どうにか勝利することができました。この勝利は自分たちの力だけではなく、チーム全員そして会場で応援してくださった方々のおかげだと思えます。

学校での稽古時間は、長くても1日1時間30分程度しかありません。他校と比べると稽古時間は限られているため、効率よく行うことが求められます。そのため、短時間で集中して絶えず考えながら稽古することを意識しています。また、レギュラー・イレギュラーに関係なく部員全員が非常に熱心に稽古に臨んでいます。これらが今回の結果に結びついたのでと思います。

### 兵庫県高等学校新人剣道大会試合結果

1回戦	3-1	姫路東
2回戦	4-0	三田祥雲館
3回戦	4-0	洲本実業
4回戦	2-1	加古川東
準々決勝	3-2	滝川第二
準決勝	0-5	育英

学校だより

## 甲陽学院同窓生講演会

高等学校

20代をデザインする  
— アーキテクトの思考方法 —

建築家 榎本 恒平 (68回)

2008年11月25日、土曜日の放課後に高等学校の視聴覚教室で本校68回生の建築家、榎本恒平氏の講演会が行われ、約45名が参加しました。榎本氏は東京大学工学部建築学科卒業後、同大学院建築学専攻修士課程修了、オランダ The Berlage Institute Amsterdam に留学、現地でOMA：Office for Metropolitan Architecture勤務。その後、榎本恒平事務所を設立し、大学の非常勤講師としても活躍されています。



まず、榎本氏が尼崎、立花近辺で手がけられた「ザめしや」「函館市場」「デイリーカナートイズミヤ」「ローソン」の様々な写真をプロジェクターで映しながら、建物のデザインを作り上げていくプロセスについて説明されました。続いて規模の大きいものとして、サンフランシスコのAIDS Memorial Groveに日本の水琴窟を利用する提案や、未来の東京の都市空間を構想するプロジェクトなど、ランドスケープデザインの仕事を紹介されました。ちなみに仕事で実際に使用する建築の模型をいくつも持参されており、講演が終わった後生徒達がそれを見ながら質問をしていました。

後半では甲陽学院でのこと、大学と大学院での過ごし方、就職について等々、エピソードを交えて個人史を話していただきました。建築の雑誌を高校時代に興味を持って読んでいたことが、結果的に大きなアドバンテージを獲得することになったことを、大学の専門課程に進んだときに感じたそうです。オランダのOMAは、“How are you?” の挨拶の次には上司に “What are you doing?” “Why are you doing it?” と問われて論理的に答えることを要求される職場であり、精神的にずいぶん鍛えられたそうです。

最後に「外部環境の情報収集分析→内部環境の情報収集分析→目標の設定→様々なオプションからの選択」と、建築の設計にも、高校生の将来設計にも共通する話をしていただきました。また、卒業して20年経つ甲陽での同級生が現在就いている職業のデータが示されました。参加した高校生も自身の20年後がどのようなキャリアに考えるきっかけになったことでしょう。先行きが不透明な時代ですが聞いていた生徒諸君も、「自分たちもきっと20年後には今日の講演者と同じように立派になっているはずだ」と、自信を持って進んでいってもらいたいものです。(橋本修吾 記)

中学校

## 火星に行ってみよう！

和歌山大学観光学部地域再生学科

講師 中申 孝志 (75回)

去る2008年11月20日の午後、甲陽学院中学校講堂において、第8回同窓生講演会が行われました。今回講師にお招きしたのは本校75回生の中申孝志先生です。中申先生は1994年に本校を卒業後、京都大学理学部に進学され、同大学院理学研究科にて宇宙物理学を専攻されました。博士号を取得された後から研究員を続けられ、2008年より和歌山大学観光学部地域再生学科に勤務されています。専門は惑星大気論、特に火星大気にみられる現象の観測的手法による研究をされる一方、科学をどのように観光コンテンツとするかという「科学観光論」の研究にも着手されています。



当日は、壇上に登場するや得意の作品を披露され、生徒たちの目を惹きつけられました。その後、ナイアガラの滝やバリンジャークレーターなど地球上の様々な場所における自然の姿をスライドに映し出し、なぜ現在のような状態になったのかということの説明されました。そして、「物事を少しでも知るだけで、全く別のものが見えてくる」ということが観光学では大切であると話されました。

後半は、火星についてのお話で、火星と地球の対比をした上で、実際に火星に行って生活をするためには何を準備すればよいか？というところから始まりました。火星へのバーチャルツアーに参加した生徒たちは、火星と地球が再接近する時を狙って探査機を打ち上げ、火星の大気組成や気象を把握した上で着陸をさせなければならない、という中申先生の話に楽しくまた真剣に聞き入っていました。

仮に火星で暮らすとしても、エネルギー問題などを解決せねばならず、それらの課題をクリアするためには地球のことをより深く研究しなければならない、と話を締めくくった先生にはたくさんの拍手が贈られました。

(溝口貴浩 記)



# 卒業生と母校、在校生を結ぶ絆 奨学金ファンドにご協力を！

甲陽学院同窓生による奨学金制度は2003年に34回生クラス会で創設提案がなされ、同窓会、学院と具体案の詳細検討を経て2005年同窓会役員総会で最終承認され同年募金が始まりました。2006年度から奨学生への給付が開始されました。現在までに延べ19名の生徒が本奨学金を受給しています。

**本奨学金制度は母校と在校生にとって有意義なものとなっています。**

在校生を取り巻く経済環境は決して良好とばかりは言えません。高校では、西宮市など同窓会以外の奨学金を受けている生徒が12名います。今後は、昨年もそうでしたが、ご承知のような景気の低迷の影響を直接受け、緊急に援助の必要な生徒が増えてくることが予想され、本ファンドの重要性が増すものと思われま

**ファンドの目標金額は1億円ですが現在大幅に未達成です。**

現在中高各学年に1名、年間20万円給付を基本として運営しています。同窓会の皆様のご支援のお蔭で着実に基金は増えていますが、現在のファンド残高は約

3700万円、この奨学金制度を永続させるための目標金額には遠く及びません。今後の厳しい経済情勢への対応を考えますと早急に基金の充実を図らねばなりません。

**卒業生の醸金者率は僅か数%です。皆様のご協力をお願いします。**

回生別の醸金者数をご覧になってお分かりになると思いますが、34回生のようにほぼ半数に醸金していただいている回生がある反面、多くの回生が5%を切っています。一方、一度ならず何度も醸金頂いている方も40名を超えました。醸金方法は下の通りです。一口1万円からで何口でも結構です。尚、税法上の寄付控除の対象ではありません。

**奨学金ファンドは卒業生と母校、在校生を結ぶ絆です**

甲陽学院では、皆さんご承知のように学院自身に保護者、卒業生からの寄付の募集をしないという私学には珍しい誇り高い方針があります。奨学金ファンドは同窓生として母校に貢献できる数少ない機会の一つです。皆様のご協力を重ねてお願い申し上げます。

### 【醸金方法】

- (1) 同封の振込用紙を利用し、通信欄にファンドへの醸金の旨を明記して、郵便局もしくは三井住友銀行の「甲陽学院同窓会」の口座にお振り込み下さるか、
  - (2) 三菱東京UFJ銀行芦屋支店 普通口座3998990 口座名義 甲陽学院同窓会奨学金ファンド にお振り込み下さい。
- (2)の場合、振込人の卒業回生が分かるようにお願いします。

回生	醸金者数	醸金者率
4	1	(50.0%)
11	1	(7.1%)
13	2	(11.8%)
14	0	(0.0%)
15	1	(4.0%)
16	1	(4.0%)
17	2	(5.9%)
18	6	(14.6%)
19	1	(2.0%)
20	5	(5.9%)
21	3	(4.0%)
22	7	(8.4%)
23	8	(7.9%)
24	3	(3.3%)
25	5	(4.2%)
26	0	(0.0%)
27	16	(17.8%)
28	4	(7.5%)
29	3	(10.7%)
30	1	4.0%
31	24	(31.2%)
32	6	(7.2%)

回生	醸金者数	醸金者率
33	18	(16.4%)
34	34	(50.7%)
35	38	(37.6%)
36	42	(48.8%)
37	54	(44.6%)
38	28	(26.7%)
39	63	(48.5%)
40	22	(17.3%)
41	10	(7.7%)
42	12	(9.5%)
43	11	(7.8%)
44	4	(2.7%)
45	15	(10.1%)
46	7	(4.0%)
47	11	(6.1%)
48	5	(2.8%)
49	10	(5.5%)
50	9	(5.1%)
51	10	(5.2%)
52	7	(3.8%)
53	5	(2.9%)
54	5	(2.7%)

回生	醸金者数	醸金者率
55	10	(5.0%)
56	9	(5.0%)
57	16	(7.6%)
58	18	(9.7%)
59	11	(5.4%)
60	12	(6.3%)
61	6	(3.3%)
62	16	(7.7%)
63	6	(3.8%)
64	6	(3.7%)
65	5	(3.0%)
66	2	(1.3%)
67	7	(4.1%)
68	1	(0.6%)
69	4	(2.4%)
70	2	(1.1%)
71	1	(0.6%)
72	9	(4.8%)
73	0	(0.0%)
74	4	(2.6%)
75	5	(3.0%)
76	4	(2.6%)

回生	醸金者数	醸金者率
77	2	(1.2%)
78	2	(1.1%)
79	1	(0.6%)
80	2	(1.1%)
81	1	(0.5%)
82	2	(1.0%)
83	6	(3.0%)
84	0	(0.0%)
85	1	(0.5%)
86	2	(1.0%)
87	3	(1.5%)
88	2	(1.0%)
89	1	(0.5%)
高商1	0	(0.0%)
高商2	1	(1.9%)
高商3	1	(2.4%)
高商4	4	(8.3%)
工1(機)	0	(0.0%)
工1(造)	3	(13.6%)
工2(機)	3	(11.5%)
工2(造)	0	(0.0%)
工2(営)	1	(6.7%)

\*醸金者数は「延べ数」です。同一人物が複数回醸金された場合はその複数回をカウントしています。

\*\*醸金者率を算出する際の分母は、回生ごとの人数から物故者と住所不明者の人数を差し引いた数です。

\*\*\*23回、36回、39回で「ご一同様」からの醸金がありました。それについてはやむをえず1人分でカウントしています。

## 甲陽学院同窓会奨学金ファンド醸金者一覧

2008年 6 月 1 日以降12月31日までにファンドに醸金くださいました方のご芳名を以下に掲載いたします(敬称略)。まことにありがとうございました。(2008年 5 月31日以前に醸金された方は73号～78号に掲載しております。)

13回 吉田 利雄	38回 江壽健一郎	49回 吉舎 広幸	61回 吉田 弘一
20回 川島 茂	38回 高寺 美慈	52回 飛田 圭吾	62回 栗栖 孝一
24回 近久 史郎	39回 北条 博彦	53回 小林 三洋	63回 高見 俊浩
25回 高田 典雪	39回 四井 光	54回 中島 祥好	64回 北村 裕明
28回 勝部重一郎	39回 田渕 博	55回 御手洗 毅	65回 富岡 孝行
29回 南 弘	39回 小林 明生	55回 酒井 雅弘	65回 植木 努
31回 村上 慶彦	39回 川野 晴雄	56回 坂野 康郎	66回 鏡 智明
31回 八木 頼夫	39回 天野 光郎	56回 佐野 隆夫	67回 坂 好博
31回 鈴木 登	40回 高口 恭行	57回 白尾 誠二	69回 大津 雅亮
32回 池田 泰二	42回 赤尾 琢磨	57回 伊賀 俊行	72回 今村 岳司
32回 西村 博仁	42回 三輪 昌生	58回 新川 研	72回 岡田 信彦
33回 若田雄太郎	42回 稲野 昌夫	58回 奥村明之進	72回 竹内 新
35回 尾山 啓二	43回 小谷 朋之	58回 越久 仁敬	75回 福本慎一郎
35回 太田佐喜夫	43回 天方 昌和	58回 荒木謙一郎	76回 甲斐 明彦
36回 石村 康	45回 小林 智夫	59回 島本 佳憲	80回 海老原真道
36回 鮎貝 盛和	45回 秋山 哲郎	59回 柴田 良平	82回 南 建輔
36回 原 謙三	45回 米田 郷彦	60回 中山 裕雄	87回 宇治田直也
37回 澤井 敏治	46回 船戸 敬介	60回 阿多 博文	88回 白石 敦士
37回 上田 新一	48回 森田 英一	60回 高井 裕之	高商3 加登 衛
38回 三木 則夫	49回 鳥井 親一		

“ベルカントの響きに乗せて、イタリア・日本の歌を!”

### 五十嵐喜芳・麻利江 父娘コンサート

2009年5月1日(金) 18時00分開場 18時30分開演  
 於・兵庫県立芸術文化センター 小ホール(通称・神戸女学院ホール)



\*われらの仲間・五十嵐喜芳さんが、ふるさと・西宮で父娘コンサートを開催されます。しばし彼のテノールを満喫したいものです。

五十嵐喜芳(25回)さんは、母校・甲陽を1945年3月に卒業されました。その後、東京芸術大学を経て、1966年「カルメン」のドン・ホセで藤原歌劇団の舞台でデビューされました。以後、数多くのオペラの舞台に主役として立ち、日本を代表するテノールの第一人者としての地位を得られました。また、その後のご活躍は目をみはるものがあり、世界に通用するテノールとして日本声楽界の一時代を築かれました。

藤原歌劇団総監督、新国立劇場2代目芸術監督等を経て、現在は昭和音楽大学学長としてご活躍されています。昨年は、満80歳の傘寿を祝う、感謝を込めての父娘コンサートを全国各地で開催されました。

お嬢様の五十嵐麻利江さんは、イタリア・ローマ生まれで、桐朋学園大学声楽科を卒業され、1985年ミラノに留学され、オペラ歌手を目指して研鑽を積まれました。1986年ボローニャにて「リゴレット」のジルダでオペラ・デビュー。1991年、藤原歌劇団「夢遊病の女」リーザで日本オペラ界にデビュー。その後は、イタリアのローマ歌劇場をはじめ各地の劇場に出演。

現在は、オペラや各種コンサートでの演奏と共に、司会などでも幅広く活躍し、音楽性と軽妙な演技で高い評価を得ています。

中村均氏がピアノ伴奏をされます。同氏は東京芸術大学作曲科のご卒業で、五十嵐さんの専属ピアニストをはじめ、有名音楽家の伴奏を一手に引き受けられています。即興演奏を得意とし、音楽性豊かな将来が囑望されています。

賛助出演として春木浩子さんが、ハープ奏者として出演されます。春木さんは、五十嵐さんと同期の松原市郎(25回)さんの御令嬢です。大阪音楽大学・同大学院を卒業され、同大学の教育助手を経て現在はフリーの演奏家として、トークを交えたコンサートを各地で行い活躍されています。

[チケットなど] \*まだ発売日・発券場所などは未定です。

\*料金 一般…2,500円・シニア・学生…2,000円

その他：2月末頃には詳細が判ります。チラシ等は同窓会事務所に置く予定ですので、ご面倒をお掛けしますが、事務所までお問い合わせください。

## 第13回 リレー随筆

「かがよひのとき」村上千秋先生と  
俳句少年たち

西田 元次 (35回)

## (一)

昭和20年代の西宮市香櫨園海岸は今ほ幻となった白砂青松の浜辺に潮の香が溢れていた。浜辺から低い防潮堤を越すと今も懐かしい木造平屋造の甲陽学院中学校の学舎があった。15年戦争と呼ぶ日中戦争、太平洋戦争は1945年(昭和20年)8月15日、日本のポツダム宣言受諾により終結した。連日の空襲、灯火管制から解放された日本国民は価値観の急激な変貌により虚無感に覆われ、毎日にインフレが進行した。空襲により破壊された瓦礫の街の食糧難は凄まじく街には闇市が乱立していた。間もなくアメリカ軍を主力とする占領軍が進駐してきた。空襲により家と家族を失った子供達は浮浪児となり野宿して靴磨や屑拾などで自活した。小さな子供達は「ギブミーチョコレート、チュウイングム」とアメリカ兵に駆け寄っては甘味を乞うた。やがて対日占領政策の根幹となる「民主主義」が宣伝、実施されたが、この言葉は「民主主義」には手垢のつかない新鮮な言葉として、その未来には眩むばかりの豊かな楽園像が描かれていた。小学校(昭和十六年にナチスドイツの教育制度にならい国民学校と改称された)の上級学年で終戦を迎えた私たちは数年先には軍隊に入り「お国のために戦い死ぬ」道が定められていた軍国少年であった。対日民主化政策が進み、その一環として教育制度改革が指示され、新たに6・3・3教育制度の新制中学が開設されることになった。辰馬家と辰馬育英会理事会は「新生日本」を担う若者を育てるには新しい教育の革袋が必要であると決意して廃校が決まった香櫨園の甲陽工専の校舎に新制中学の開校を決めた。全国に優秀な教員人材をもとめ、新設中学校の北側に職員住宅を用意した。呼びかけに応じ「新生日本」の若者の教育に燃えた丸谷喜市校長(神戸経済大学学長)、芥川潤(関西学院大学教授)先生らは大学学長、大学教授の職を擲って参じた。その他、専門学校教授、新卒の先生は旧制帝大卒が多かった。後に校長に就任された芥川潤先生の夫人は「あの頃、主人は中学生に英会話をどのように教えるか毎夜遅くまで準備していました」と回顧されている。無理もない。小学生時代英語は敵国語として全く排除された時代に育っていた。ある先生は自作の経済のテキストで授業を進め「私が大学で講義しても言葉は違ってもこれ以上の内容は話せません」と語った。小河清磨先生の数学のテキストは英語で書かれていた。数学嫌いには二重地獄であった。歴史の高井悌三郎、国語の吉田謙一、体育の山鼻先生、美術の須田剋太先生は手作りの教科書や強烈な個性を発揮した新鮮な授業を展開された。高度な内容をいかに解り易く教えるか、それが先生方の大きな命題であった。大学受験のノウハウと知識を教えるのではなく生きてゆくための知識や学問を学んだ。まだ教科書が整わないため先生手作りの教科書が多く、少数の師弟による熱気あふれる授業は明治維新前の松下村塾、適塾の個性溢れる教育を思わせるものがあった。

## (二)

昭和26年中学校を卒業した35回生は甲子園球場に近い甲陽学院高等学校に進学した。同時に村上千秋先生は高校担任として転任された。この機に35回生の有志が先生を指導者として甲陽学院「あかね俳句会」を結成した。この俳句会は校史、記念誌に記載されていない、規則もない自由な同好会であった。俳句会発足の経緯は村上先生も記憶が定かではないが、新制中学のころ、国漢の村上、真川伊佐雄先

生中心に生徒、教職員と家族、父兄が参加するなごやかな俳句会が開かれていた。その後、生徒の句会が断続的に続いたが、これが「あかね俳句会」の底流ではないか。

村上千秋先生は京都大学文学部国文科卒、京大時代には「京大ホトトギス会」に参加され、鈴鹿野風呂(京鹿子主宰)田中王城(ホトトギス同人)の指導を受け、丸山海道、波多野爽波(のち「京鹿子」、「青」の主宰者)という後の俳壇史に残る華麗な句友と作句を競った。先生の実家は京都の安養寺であり、令兄が俳句を嗜まれた。この寺を訪れた高濱虚子が

山門のぺんぺん草や安養寺 虚子  
と詠んだ、先生、曰く「虚子先生の句は有難いが、山門のぺんぺん草とはねえ!」と苦笑されていた。

先生のあだ名は「シミキン」。戦前、戦後の浅草の喜劇俳優清水金一に由来するが、「シミキン」の舞台実像をほとんど知らない私たち知らないから写真を見ての類想であろう。後輩は「ムーミンパパ」と呼んだが、これは暖かい雰囲気は漂う先生びつたりのあだ名と思った。高校を卒業後、お宅を訪ねると「君ねえ、この間、梅田の地下街を歩いていると卒業生が駆け寄ってきて『清水先生、お久しぶりです。お元気ですか。…』と一気に喋るんだよ」「それでどうされました」「口を挟む間もなく、10分以上喋りまくるから、今更私は村上千秋だと名乗る訳にもいかず、清水千秋で通したよ」「その卒業生の名前は?」「知らないね。顔に覚えはあるけど…」

そのころ先生は美幸夫人、一粒種の春樹さん(今をときめく「ノルウェイの森」の作家)とともに中学校の職員住宅に住んでおられた。春樹さんは悪戯盛りのガキ大将、住宅の女の子達は「春樹ちゃんが来た」と逃げまどった。

句会の先生の指導は「ほめ上手」であり、無責任ながら私も乗せられて俳句の深みに嵌っていった。しかし俳句指導のレベルは高く、感性豊かな高校生達はすぐに句作力をつけて秀れた句を作っていた。「茜俳句会」の名は万葉集の額田王の「茜さす紫野ゆき…」による。俳句と和歌の違いはあるが若い生徒達の万葉ロマンであった。当時は全校の生徒数が少なく、生徒は複数のクラブに参加しているため放課後に句会を開会する余地はなかった。苦肉の策として毎週月曜日の昼休に空き教室に弁当を食べながらの昼飯句会となった。午後の始業の予鈴が句会終了であった。月一回の俳論研究会は先生の指導により近代俳論を学んだ。平素の慌ただしい句会を補うために日曜祭日、春夏秋冬休みには校外の吟行句会を行った。会員の家、遊園地、キャンプ場と様々であったが神保孝之君の実家のお寺の新年句会は静かな閑寂の庭とご本尊に対して身も引締まる初句会であった。ある時「闇汁句会」が計画された。闇汁会とは真っ暗な部屋の鍋に各自持ち込むネタを入れて煮込み闇の中で食べるのである。この時は珍しく先生より全員集合がかけられた「諸君を信用します。食べられるものを持ってきなさい」と厳命が下った。どうやら先生自身、旧制中学時代の凄まじい闇汁会を経験されていたのだろう。前日、息子のネタ作りを手伝ったある母親は「貴男はね、他人の持ってきたものは食べても貴男のものは絶対に食べてはいけないう」と諭した。当日、真っ暗な部屋の鍋には工夫を凝らしたネタが持ち込まれ、無限大に繋がる糸コンニャク、七味詰の竹輪、ビタミン剤入の肉団子等の珍味が鎮座していた。村上先生は観念されたのか、黙って箸を運ばれていた。

武庫川の上流、生瀬付近の河原にキャンプ句会を行った。河原を整地してテントを張り、川の灘みに水遊びを楽しみ、

やがて河原句会も終わった。夕日が傾く頃、夕食となったが、先生は秘かにリュックに「白鹿」を忍ばせてこられた。「もう三、四年すると君たちと一献することになるな!」とチビリ、チビリと独酌を楽しまれた。間もなく「先生、一杯やるとよく眠れるんですよ」と白々しく誘いをかけ、先生の杯を横取りした。たちまち次々と手が伸びてくる、杯慣れのした手つきがある。酒瓶は間もなく空となり、歌まで飛び出す宴となった。夜中に高まる川音と隣の軒にも邪魔されず熟睡して爽やかな川辺の朝を迎えた。

一年経つ頃、会誌発行が決まり、手分けして謄写版を切り「あかね」第一号が発行された。表紙は会員外の早く亡くなった北村直矢君が絵を引き受けてくれた。手元に第一号はなく、第二号から引くと巻頭に

年末より年始 村上千秋  
山茶花の一輪赤き冬の花園  
枇杷の花すがれて年も果てんとす  
喧噪の街を掩ひて雲凍つる

など十句がおかれ、会員作品集、句会報、先生の連載評論「俳句の遊戯性」が掲載された。先生の評論は二回で終わったが、主題は現在にも通用する高度な俳論であった。当時の私は内容を理解することは出来なかったが、近代俳句史研究の地下水脈であろうか。特別寄稿の鈴木博君の「芭蕉について思うこと」、詩、短歌、随筆と充実していた。放課後、図書閲覧室に暗くなるまで謄写版を切った思い出が懐かしい。

#### 会員作品

梅満開実朝忌となりにけり	嘉部隆月 (嘉隆)
藤棚は緑あふれて暮のこる	
一冊の本読み終へて寒さかな	
曼珠沙華腋に手ばさみ髪なほす	神保孝之 (全孝)
美しき年の暮なり歩みけり	
何もかも美しくする雪が降る	
見下ろせば底の早瀬の落葉かな	宮原蟹子 (滋)
せせらぎの音軽くして柿をむく	塩谷陽成 (洋一)
せせらぎの近き気配や紅葉狩る	中浜楚芳 (恒雄)
腹一杯食べて雲湧く西瓜畑	松本唯一
秋の川羊の群の雲映し	津田船長 (栄一)
鳥追ひて露の湖畔を獵夫ゆく	西田北童 (元次)
死に近き祖母の病や柿熟るる	
菊咲いて女神のごとく花園の秋	

(昭和二十七年二月二十七日第二号)

高校から甲陽学院に入学し、句会の中核として活躍した中浜恒雄君、松本唯一君が卒業後、早世したのが悔やまれる。中浜君は自分が企画した「あかねOB句会」の当日急逝した。

句会が軌道に乗り始め俳句を全校生徒にと校内懸賞俳句大会が開かれた。題材を校内生活に限ったが、三百人足らずの全校生から二百七十句が集まる盛況であった。天賞は流石に「あかね俳句」会員の

コーラスの練習厳し寒に入る 神保孝之 が選ばれた。

第三号発行の頃、句会を詩、短歌、俳句、小説などの総合文芸誌に発展させようとする動きが起ってきた。その後「あかね」は嘉部君の努力により文芸誌「あかね」から「高潮」へと発展した。俳句会は下級生の加入が少なく後継者が続かず、大学受験を控えた会員には句会活動が次第に重荷となってきた。三十五回生の卒業後、甲陽学院西俳句会は短い歴史を閉じた。

卒業後、十年経た頃、昔の友達が懐かしい年令となり、「西俳句会」の再開が呼びかけられた。村上先生をお招きして小料理屋、レストラン、時には先生宅に押し掛けた。顔ぶれは原始会員とは異動があり、村上先生を招いての句会となると酒は欠かせず、俳句を肴にするOB親睦会であった。当時、

故阿部常彦君が社長を勤めた奈良ホテル句会は豪華版であった。社長臨席の食事会とあって会食者に一人づつボーイが控え、一寸緊張する食事句会となった。句会は不定期に続くが1995年阪神淡路大震災により村上先生、西田宅、会場の小料理屋は全壊、その他、被害を受けた会員が多く、交通途絶とあって中止となった。先生は京都に避難されて会は再び開くことはなかった。(震災前に、一時消滅した句会を復活とする会報があるが間隔の長短はあるが震災前の途絶はなく震災により終止符を打った。

私は大学卒業後、俳句活動を再開すると二、三の結社を渡り歩くなかで、有志と超結社の「芦の会」を芦屋の社宅で開いた。同じ芦屋市内の先生をお誘いすると快く参加された。句の文法上の疑義に及ぶとたちまち先生の明快な解釈がなされて国文学の深い造詣を示された。並み居る俳句の熟達者も舌を巻いた。

#### (三)

私達の卒業アルバムの担任照影の脇に村上先生は「教えることはあまりに貧しく、教えられることのみ多かった五年の歲月よ」と記された。それを読んだ時には感傷的で「エエ格好シー」と気に留めなかった。だが、自分が永年、教職に就き、教えることに四苦八苦するなかでこの言葉が胸に蘇ってきた。昭和40年代末の頃か、先生が中学校の教頭に就任されたと聞くと、お祝い言葉を述べた。「私は管理職は好きではない。教師は教壇に立つときにもっとも喜びと生き甲斐を感じるのだよ」と眩かれた。後で聞くと先生の教頭就任は、大学に起こった紛争が高校にまで波及して甲陽高校にも波乱が及んだとき、これを見事に収められた小河清磨校長の強い要請であったという。私は2000年に40年間勤続した芦屋大学附属高等学校を定年退職した。この間一教師として教員生活を過ごすことができた。人は「管理職の能力がなかった」「弱腰、弱虫」という人もいる。この歲月の曲折は決して平穩ではなかった。いくつかの岐路に立ったとき、心に浮かんだのはひたむきに教えられる村上先生をはじめ甲陽学院の先生方の姿であった。その姿が当然の教師像として焼き付けられ、不器用なスタイルながら、ひたむきに授業、クラブ活動に打ち込んできた。ようやく「生涯一教師」と心寧く云うことができる。ライフワークの評伝「石橋秀野の世界」(和泉書院)をお贈りすると衰える視力を駆使して読んでいただき「いい本だ、君は良い余生を送るよ」という言葉を頂いた。

先生が京都に去られOB句会も途絶し、訪問客の応接が苦痛と聞くとお訪ねする機会が遠のいた。私は昨年、若い人々と「京大俳句を読む会」を発足させ資料発掘を始めた。「京大俳句会」は昭和7年に京都大学OBにより結成され、その自由主義的な傾向から治安当局の弾圧をうけて昭和15年、主要同人の検挙、雑誌は廃刊となった。「京大俳句」は先生の先輩達の結社であり、この取り組みを是非、報告したいと思う矢先の訃報であった。

偲ぶ会の席上の先生の温顔の遺影を拝すると先生が既に亡き中浜、松本、阿部君達と歓談する座に私も割り込みたいと思ったが、遺影の光影が少しずれると「西シャン、京大俳句研究をするのなら、せめて私の年まではやれよ」という先生の声が聞こえてきた。

「そうですね、やりますか」

タンポポを飾り生涯一教師

西田もとつぐ

(プロフィール) 西田元次 35回卒、早稲田大学卒業、芦屋大学附属高校に四十年勤務後、定年退職。俳人、近代俳句史研究 評伝「石橋秀野の世界」(和泉書院・図書館協会選定図書)他、近代俳句史関係論文多数。

# 村上千秋先生 逝去



長らく母校で教鞭をとられ、教頭も務められた村上千秋先生の訃報に接しました。  
謹んで御報告申し上げます。



35回B組クラス会  
平成14年5月26日  
京都グランヴィアホテルにて

## 村上先生逝く

泉 盛男 (35回)

OB諸兄には先刻ご高承のとおり、昭和58年教頭として退職されるまでの34年間、学級や国語の担任としてご指導いただいた村上千秋先生には、平成20年8月8日肝臓癌にてご逝去。享年90歳の天寿を全うされた大往生に、隣国北京でも盛大に花火を打ち上げて表敬！？

振り返ってみれば昭和24年4月、中庭に面した窓から差し込む朝陽を正面に受けて出席簿を小脇に、廊下扉からスイッとといった感じで初お目見え。

我々甲陽学院新制中学校2期生B組35名は、前年香檳園の学び舎へ入学以来、担任教師持ち上りのA、C両クラスと異なり、3人目のしかも新赴任の担任にヤングの好奇心は並々ならぬものが…開口一番「僕は所謂達筆家ではないので丁寧、を心掛けています。」と云われてソフトタッチな楷書体で氏名を黒板に書かれた。

下がり気味の目尻と、稍受け口の風貌から早速ついたニックネームが“シミキン”。当時喜劇映画界をリードしていたエノケン、ロッパに伍して上昇気流中の新進コメディアン清水金一に由来している。

以来5年間、我がB組担任及び国語教師としてそのニックネームに相応しく、ジョークを交えた柔和な教室ムードを醸して頂き、同一顔ぶれのクラスメイト一同、昭和29年の卒業式を迎えることが出来た。

平成20年9月7日午後京都河原町のホテル京都オークラにて、教え子や学院関係者150名余りが参集してのお別れ会、美幸夫人と今は世界的作家としてご活躍の一粒春樹氏が臨席して、各人粛々とカーネーション献花の列。弔辞は美幸夫人たってのご指名により、教え子代表の東京から馳せ参じた上村浩郎君が先生の詠まれた俳句の幾つかを紹介した後、春樹氏のご挨拶では、ご家庭での先生曾つてのご様子などを披露されたのが興味深かった。

引き続いての歓談タイムではグラス片手に三々五々2時間余、一向に湿っぽい空気が無かったのは先生当時のお人柄と、にこやかに見下ろされていた遺影の故か、全員ある意味満たされた気分で夕暮れ残暑の洛陽をあとにした。

最後に、数多く遺された中より一句：

ほだいじゅの いのちしづけく 花散らす 千秋

謹んで「万空千秋居士」様のご冥福を祈ります。合掌

## 村上先生を偲んで

小西 省三郎 (45回)

村上先生は、優しく穏やかな人柄、よく通る声、黒板に書かれる伸びやかな字と、古典から現代に至る豊かな素養を持った、国語の教師そして教育者の理想像ともいべき方でありました。最初は僧侶になる勉強をされたそうですので、そこで培われた学識や人間性が背景にあったのだと思います。

先生が京都に隠棲されてから、「返事を出すのも大変なので、年賀状は辞退したい」とのお便りがありました。多くの方はこの時点で連絡が途絶えたのではないかと思います。私は「返事はいいません。私が元気に生活している事を知っていただければ幸いです。」と書いてそのまま年賀状を出し続け、連絡を保っていました。

電話や簡単な葉書のみですので十分な情報とはいえませんが、晩年の先生の生活について、同窓会などで報告することを前提にお聞きしたことを、紹介したいと思います。

「もう年とってヨタヨタです」という言葉が何度も出て来ますように、肝臓、腎臓、心臓発作など多くの病気を抱えておられました。

お住まいの近くの京都府立医大病院を中心に、その関連病院等で透析を含む治療を受けておられました。幸い「府立医大にも整形外科や救急の責任者をはじめ甲陽卒業生が沢山いて、いろいろ心配りしながら診てくれる。往診に来てくれる医師もおり、大変助かっている。」と喜んでおられました。

また、「多くの方から、年賀や見舞いその他のお便りをいただいているが、バネ指で字が書けず、返事ができない。」「家に来てもらおうと、懐かしさのあまりつい話し込んで、体調を崩してしまう。それでお断りしている。」などと、卒業生とわずかばかりの交流も困難なことを、残念にそして心苦しく思っておられる様子でした。

卒業アルバムにも「小鳥来て 小鳥また去り 年めぐる」と詠んでおられたように、先生の俳句には、生徒たちと重ねあわせて、小鳥がよく出てきます。葉書にも「御所の鳥の声を聞きながらひっそりとくらしています」とも書いておられました。

最後の句は、「古いぬれば 老いの愉しみ 小鳥来る」でした。

先生のご冥福をお祈り申し上げます。

(合掌)

## 谷本 勇先生 逝去



昭和53年まで母校で英語科教諭として教鞭をとられた谷本勇先生が、昨年 5 月 29 日に逝去されました。

### 谷本勇先生を偲んで

大野 忠雄 (42回)

先生の訃報を知ったのは、同輩の花木君と学年同窓会の前打ち合せをした時でした。彼のところへ同窓会本部の事務局から連絡があり、すでに葬儀も身内ですまされたとのことでした。

私たちは 2 年に一度定期的に学年同窓会を開催し、その間はゴルフ会とか地方の会とかを随時開くことにしています。

今から 6 年前、私達が還暦を迎えた記念の同窓会を開催した時に、先生に出席していただき、私たちへの祝辞と先生の近況をお話しいただきましたが、近年は体調を少し崩されその後の同窓会にはご出席いただけない状況が続いていて、今回も無理かなと思っていた矢先なので、まさかとの思いと共に誠に寂しく残念な気持ちになったものでした。

先生には中学、高校の 6 年間に亘り英語を教えていただき、高校の 3 年間はクラスの担任として何かと面倒をみていただきました。

思えば高校時代に私が旺文社の 1 万人にも及ぶ英語の全国テストでたまたま良い成績を取った際、初めて、しかも一度だけ先生から褒められたことが、諸科目の中でも特に英語により強い興味を持ち英語の勉強に注力することになり、ひいては英語のウエイトが高かった慶応義塾に進学す

る結果となりました。

卒業した後も、実社会で会社でも関連する外部の諸団体でも外国、外国語と関わりを持った業務、任務にいそしみ、最近では趣味の領域でインターネットからの情報をもとに手作りの海外旅行をするなど、英語との関わり深い人生を送らせていただくことになっています。

特に先生は、同輩の玉津君によれば“習慣 習慣”を口癖のようにおっしゃり、英語の発音、アクセントを重要視され何度もなんどもその点の注意を受けた記憶があります。また、英単語をより多く覚えるため豆単辞書一冊全部の暗記も実施され、それらがスムーズな英語の会話伝達力と、より深い読解力につながったように思います。

高校に上がってから私たちの担任をしていただいた時のことですが、数学を担当された谷本先生と国語を担当された木村先生が他のクラスの担任としておられたこともあり、いつも先生をもっぱら愛称“ゲル”と呼ぶようになり、これはその後今でも続いています。昨年 11 月学年同窓会が開催されたおり、当日の出席者全員で先生に黙とうを捧げ在りし日の先生を偲びましたが、この愛称が同輩の飯田君の発案で、頑固の G とゾル、ゲルが合わさって出来たことを初めて知り、先生の面影、イメージをより一層鮮明に思い出すことになりました。

故中島久先生が同窓会に来られた時、ご挨拶で“この学年は特出した人はいないけど、これほど和気あいあいでの良い学年はない”とよく話されました。良き先生に恵まれ、学問、生活等に亘り優しく、厳しく教えていただいた結果もたされているものではないかと思っています。

本当にお世話になりました。有難うございました。

改めて先生のご冥福を心よりお祈りいたします。 合掌

## 神田郁夫先生 逝去



昭和28年まで母校で国語科教諭として教鞭をとられた神田郁夫先生が、昨年 2 月 4 日に逝去されました。

### 神田郁夫先生の思い出

足立 昌之 (38回)

先生には、中学 1・2 年の C 組の担任の先生としてお世話になりました。

万葉集、万葉集がお口癖だった印象が強いのですが、級友達には、それぞれの思い出があるようです。

「ご担任のクラスで授業についていけない生徒を集めて補習授業会を開かれ、とにかく勉強をしないとイケないという心構えを植えつけられました。」

「漢字 100 字のテストがあり、毎週月曜日とあって日曜日は気が重く過ごしました。」

「文語体の詩文を教材に取上げられ、岩野泡鳴の詩文が出て口語訳を命じられ驚きました。」

「万葉集はじめ色々な資料をガリ版刷りで作り、それを基に授業を進められました。係り結びの法則なども習いま

した。草野心平の詩を朗読したことがあります。」

「君もお父さんのようにちょっとはまともな字を書きなさいと言われました。」

「お父さんが関西汽船の社長をされていた関係で、大阪～別府に就航していた客船『るり丸』に招待を受け、一般は立入禁止の操舵室で、羅針盤、海図等実際の船の操縦をまのあたりにして、感動しました。」

「ベートーベンの田園交響曲のレコードを、先生の解説入りで聞かせて頂きました。交響曲とはこんな素晴らしいものかと大興奮し、それから本格的にクラシックを鑑賞するようになりました。歌曲の歌唱とともに生涯の唯一の趣味となったのは神田先生のお陰です。」

「生徒に優しく教育熱心で信頼できる先生でした。」

「物静かで深く思索される方、温厚な心の温かいお人柄、生徒の目線で授業をされた先生でした。」

学校ご退職後は、住友金属工業で、六十年史続刊の「最近十年史」の編集に当られ、その後は住友修史室（現住友史料館）で住友の歴史の編纂に貢献され、そのご業績を「泉屋叢考」などの形で残されました。

先生ご自身の歴史は、教え子の一人ひとりの心の中に刻まれています。

謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げます。

# 故・西松龍一大先輩へのお別れのご挨拶

同窓会会長  
有田和男(31回)

2008年6月末、西松大先輩の突然の悲報に接し、暫し驚愕の思いと哀惜の念を禁じませんでした。

大先輩は105歳のご高齢とはいえ、私がずっと存じ上げている大先輩は、普段は至ってご健健で、杖も突かずに姿勢よくスタスタと歩かれ、同窓会などの会合には相談役として出席されていました。いくら天寿を全うされたとはいえ、大先輩から頂戴した数々のご厚誼や懐かしいご交遊が走馬灯のように思い出され、大先輩を失った悲しみは辛く胸を刺すものがあります。

大先輩は、明治36年(1903年)に大阪市西区江戸堀でお生まれになり、ご両親は西松商店の名前でインド綿花の輸入商社を営まれていました。幼児の頃に神戸市東灘区東明に移られました。そして大正6年(1917年)に開校された甲陽中学校に入学され、大正11年(1922年)に母校の第1回生として卒業されました。

大学は慶応で、ご卒業後は鐘紡に就職され、若くしてヨーロッパ駐在員になられ、一人で欧州全域を担当されていました。帰国後もアフリカから東南アジア全域を、敗戦で迎えるまで飛び廻っていたと聞かされました。戦後は鐘紡関連会社の役員を歴任され、退任後は悠々自適のご生活を楽しまれていました。

大先輩は、母校と同窓会をこよなく愛されていました。昭和38年に同窓会が再興されました。同窓会長が学校長であった時代から、第1回卒の方々が中心となり、同窓生が会長の同窓会に生まれ変わりました。大先輩は副会長として、現在の同窓会組織を立ち上げられました。その間のご辛酸の数々は、山野井(4回)・高垣(15回)・中島(22回)の亡き諸先輩からも絶えず聞かされました。何としてでも良き同窓会を次代に引き継がせたいものと言ひ聞かされてきました。

私が知る限り、西松大先輩は第1回卒業生の最後に残られた一名の方ではなかったかと思ひます。戦前の母校と同窓会の歴史を知る語り部は、人間の定めとはいえ少なく、思えば寂しい限りであり無常を感じます。

今なお思い出すのは、私が前記の亡き諸先輩から同窓会の改革と活性化に協力せよと迫られたとき、傍におられた大先輩から唐詩選の「季布に二諾なく、侯嬴は一言を重んず。人生意気に感ず。功名誰か復た論ぜん。」の詩

句を聞かされ、その心境にさせられました。

私は大先輩から、甲陽学院同窓会の進むべき道・在り方・その心意気については勿論、人間としての歩み方について格別のご教示を親しく賜りました。そして「貴方に誇りある同窓会を、次代に繋ぐ責務を託す」とお会いするたびに云われました。その時々の大先輩の慈愛に満ちた温顔が思い出されてなりません。

大先輩が99歳になられた時、諸先輩方と「白寿を祝う会」を持ちました。その時に、ご長寿の秘訣はと尋ねましたら「年晩暮なりといえども、志力壮のごとし。」と、旧唐書にある言葉が返ってきました。それを言われた時の光景が、昨日のように蘇ってきます。

大先輩は、自分の年次が甲陽の歴史と伝統を創造するのだと、まるで少年のように純粋な気概を持たれていました。本当に母校と同窓会をこよなく愛されていました。大先輩は、常々云われていました。母校愛に燃える若い同窓生の皆さんに期待している。ご苦勞を掛けると思うが甲陽を宜しく頼む、と。

この大先輩の熱き願いを引き継ぐことをお誓いして、お別れのご挨拶とさせていただきます。大先輩のご冥福を心からお祈り申し上げます。有り難う御座いました。

合 掌



## 訃報

事務局では左記会員の逝去の報に接しました。謹んで哀悼の意を表します。

(平成21年1月31日現在)

竹中	齊藤	川室	大浜	古田	山本	濱邊	岩崎	山内	山口	西松
正市氏	禎造氏	清一氏	秀次氏	敬三氏	清氏	悟氏	祥一氏	喜一郎氏	興一氏	龍一氏
(17回)	(17回)	(17回)	(17回)	(16回)	(16回)	(14回)	(13回)	(7回)	(6回)	(1回)
06年9月27日	08年4月3日	08年4月5日	08年3月12日	06年12月22日	08年6月14日	08年11月19日	08年3月19日	08年7月31日	08年12月5日	08年6月5日



由利	久保	山崎	竹田	大山	遠藤	小田	横山	植野	西村	関谷	北岡	岸岡	木村	福田	横谷	福井	菅野	岡野	星野	津吉	村井	荒井	坂出	土谷	柿沼	瑞穂	田代	久保	児島	宮崎	貞松	瀬尾	赤塚	鈴木	山本	住野	川谷	横田
清一氏	裕吉氏	爲文氏	正吉氏	新一氏	泰正氏	七郎氏	弓弦氏	真治氏	知也氏	善文氏	裕志氏	晃一氏	太郎氏	耕三氏	種明氏	敏行氏	満氏	哲也氏	中氏	薫氏	忠男氏	仁郎氏	英男氏	龍一氏	祐一氏	光信氏	英人氏	正雄氏	三郎氏	太平氏	尚氏	市松氏	不二雄氏	喜太郎氏	淑郎氏	芳春氏		
(1回)	(1回)	(3回)	(3回)	(3回)	(3回)	(8回)	(8回)	(65回)	(61回)	(55回)	(55回)	(42回)	(42回)	(40回)	(39回)	(39回)	(38回)	(36回)	(35回)	(33回)	(32回)	(28回)	(26回)	(26回)	(25回)	(25回)	(25回)	(24回)	(23回)	(23回)	(22回)	(22回)	(21回)	(20回)	(20回)	(19回)	(17回)	
07年12月30日	08年6月13日	08年8月8日	08年2月11日	08年11月7日	08年7月9日	08年12月26日	08年6月26日	08年9月22日	08年3月22日	08年9月22日	08年12月21日	06年12月21日	08年3月28日	07年10月26日	08年8月27日	08年7月21日	08年12月19日	08年12月20日	08年6月4日	05年7月29日	08年8月29日	08年6月7日	08年1月6日	08年8月8日	08年9月26日	08年6月4日	08年12月12日	07年9月20日	06年7月20日	08年7月5日	08年7月7日	08年5月8日	08年7月1日	08年3月22日	08年4月17日	08年4月9日	08年6月6日	

# 会員だより

## 21回 橘組クラス会

平成20年11月4日(火曜日)第36回目の橘会を開催しました。会場は今回も昨年同様JR芦屋駅前のホテル『竹園』でした。定刻前に参加者7名集合し、事務的な報告の後乾杯、それぞれ近況などを語りながら楽しく会食をしました。

写真は後列左から一色皓・樋口達彦・林信男・森岡甲子男、前列左から宮津雅雄・井本幸雄・濱口博章の7名です。



次の37回目の橘会は、平成21年11月4日(水曜日)、場所は本年同様ホテル『竹園』と決定し予約しました。1年先のことですが、御予定をお願いします。

幹事は今回より濱口博章君より引き継ぎ、林信男がさせていただきます。宜しく御願ひ致します。(林信男 記)

## 24回 桜組 (さくら会)

平成20年11月6日、梅田グランドビル内、白楽天にて開催致しました。本年度は、田中晃一氏が6月に逝去されました事など報告があり、あとは、それぞれの懇談の2時間でした。

記念写真は、左上から、清藤知之、小林正明、小原英治、呉竹望、浅田昭三、前列は、清藤知之、植田悟郎、奥井和致、武内清雄、計9名です。



## 24回 梅組クラス会

10月11日、24回梅組の“秀光美会例会”を大阪本町の石橋事務所で開催しました。

今年の参加者は、石橋、津村、田中、山根、讃井、大戸、古田夫妻で、前回の例会まで欠かさず出席していた常連の安部規之君の顔が見えない事である。

前回、安部君は、奥さんの体調を盛んに気にして居たのだが、ご本人の突然の死に驚かされ、心より哀悼の意を捧げお悔やみ申し上げます。

齢と共に相変わらず“病み事”“健康法”の話中心で



すが、若かりし甲陽時代の四方山話で盛り上がり、お互い健康での、来春の再会を約して散会しました。

次回は、より多くの元気なクラスメートの参加を期待して居ます。

(古田勝己 記)

## 25回 桜組クラス会

平成20年度桜組クラス会を、平成20年10月16日(木)に大阪・北新地パーティーパークで開催しました。

本年は5名の出席でありました。遠く、山形県鶴岡から小田さんが出席されました。当初9名の出席予定でしたが、体調不良のため出席出来なくなった方があり、6名となりましたが、更に其後、瑞穂さんが急逝され、結局5名となりました。瑞穂さんは、豊富な話題の持主で、何時も賑やかに座を盛り上げて戴いて居たのに、誠に残念な事であります。当クラス会を毎年開催する様になって、2年目と3年目(平成元年と2年)には、瑞穂さんが住職をして居られる常念寺の本堂を会場にして、泊り込みで利用させて戴いた事が、昨日の出来事のように思い起こされます。後日、ご霊前にクラス会の名前でご香料をお供えし、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

クラス会の席上では、四方山話に花が咲いて、楽しい一刻を過ごす事が出来ました。最後は、恒例の校歌及び応援歌の大合唱で締め括り、来年の再会を約束して散会しました。

今回の出席者は、余部光男、小田圭昭、錦織達郎、若松申一、安達正昭の5名でありました。



(安達 記)

## 25回 桃組卒業生同窓会 (甲桃会)

平成20年度をもって最後の同窓会を平成20年11月13日、大阪市北新地のパーティーパークで開催する。

毎年かかさず会合していた同窓会も今回で解散することになり、80才の高齢を迎え、今後の開催が危ぶまれる。年齢には勝てず、長生き出来た喜びや淋しさを感じながらの会合となりました。

当日の出席者

(アイウエオ順)  
池内龍雄、大塚雅也、田中邦彦、殿村収、中尾博、馬場英三、松井二郎、松岡泰三、松原市郎、山崎昌弘、山田一郎、行友正裕



以上12名の諸君でした。ちなみに物故者は18名。開催に当り出席者全員で黙祈を捧げ開会しました。

(幹事 池内・大塚)

## 42回 第10回学年会

日 時：平成20年11月29日(土曜日) 18時～21時  
場 所：甲子園 ノホテル甲子園2階 小宴会場  
来 賓：宮本茂先生、中川経治先生

出席者：飯田 潔、糸井幹雄、梅村幸彦、大野忠雄、  
奥山 純、川内秀人、岸 勝彦、木村徳弘、  
桑田信篤、河野弘志、佐々木克義、曾我昌俊、  
瀧本 武、辻 卓史、中明孝夫、永田幸夫、  
縄田和良、新田重光、花木 繁、濱崎延雄、  
浜田雅義、濱野素邦、本郷 毅、三谷一晃  
宮崎恒彰、森澤良久、森本雅義、矢野隆昭、  
矢吹 宏、山田伸郎

世話人：大野忠雄、森本正義、宮崎恒彰、木村徳弘、  
河野弘志、花木 繁

\*大野代表世話人の総司会により、進行。

前回から今回までの間の物故者(木村寿太郎君  
(2006/12/21)、谷本勇先生(2008/05/29)に黙祷を捧げた後。

宮崎世話人の開会の辞、来賓の紹介で学年会は始まった。宮本・中川両先生の御挨拶の後、木村世話人の音頭で乾杯。

バイキング形式の食事と歓談の後、個人の近況報告(大野・河野世話人の進行)に移り、途中で、宮崎世話人提供の阪神タイガースグッズ(選手のサイン色紙、タイガースのTシャツ、ロゴ入りのボールペンと、クリアホルダー)の抽選会を織り交ぜながら参加者全員の近況報告が進行した。

最後に全員で記念撮影と、甲陽学院の歌と応援歌の合唱で閉会と成った。

今回は、東北から森澤(旧姓：大西)君、東京から飯田君、奥山君、三谷君、矢野君の参加や初めての懐かしい顔(濱野君)の参加もあり、和やかなうちに楽しい3時間があっという間に過ぎた。(事務局 花木 記)



## ☆「会報・甲陽だより」の原稿募集 ☆

- \*次号・第80号は、本年7月末頃に発行を予定しています。
- \*「会員だより(同期会・クラス会)」・「運動部・文化部のOB会だより」・「詩・短歌・俳句の発表」・「クラス会・同好会・研究会等の連絡」などのご投稿をお待ちしています。
- \*原稿の締切日は、本年6月10日です。
- \*あまり長文にならないようにお願いします。

## 54回 学年同窓会(昭和48年卒)

「カントリー歌手 静先生&

秋葉原より奇跡の生還 平松君も交えて」

平成20年12月27日(土)、昭和48年卒業生の学年同窓会を大阪のホテルモントレグラスミアハウスで開催しました。当日は平成20年3月に定年退職された静利一郎先生をゲストにお迎えし、36名の同窓生が集まりました。

オープニングは静先生のカントリーウエスタン演奏。プロ顔負けのギター演奏と歌声に、参加者は驚き、感動、手拍子!拍手喝采の和やかな雰囲気の中、平松新君の発声で乾杯。



平松君は、昨年の東京秋葉原の殺傷事件に巻き込まれ大ケガをされましたが、幸い命をとりとめ奇跡の生還、「病室で同窓会各位のメールを見て、本当に励まされ、復帰への原動力になりました」と元気な姿であいさつされました。

しばし歓談の後、1人ずつの近況報告。名簿にある懐かしい学生時代の写真と見比べながら熱心に聞き入っているとあっという間に時間が過ぎていきました。静先生のギターに合わせて校歌を合唱して中締め。スナック貸切りの2次会は、静先生をはじめ30名が参加し、学生時代にタイムスリップ。大いに盛り上がり、2年後の再会を約束して散会しました。

今回は、前回幹事の森行重光君の多大な協力を得て、近況・連絡先に加え、新旧対比の顔写真を掲載したユニークな同窓会名簿をバージョンアップ。また、はがきを郵送することなくメールだけで案内、出欠確認ができました。今後は、平松君の協力により、名簿まるごとインターネットを介して共有するとともに、有志による情報交換システム「だちようネット」を立ち上げ、学年同窓のネットワークを充実していく予定です。54回同窓生の方で森行君にメールアドレスを送信されていない方は、名簿に登録されていません。森行君宛て(株式会社大和工務店 森行重光moriyuki@daiwakobe.co.jp)にメールの送信をお願い致します。

(同窓会参加者:敬称略) 朝日隆、池野旬、居谷献弥、植田典顕、上井哲也、大下勝司、岡進、岡恒、岡本隆、織田明彦、樫尾洋一、金谷整亮、木山佳明、齋藤直久、坂井幸一、高崎充弘、竹内孝、谷口忠広、中橋俊和、中村靖、中村豊、橋本宏、橋本通夫、畑善太、林幸男、肥後行人、平松新、藤岡幸男、松村光家、森本浩、森行重光、山村努、湯川英彦、吉井友実、吉岡亨、芳川(渡辺)浩男 (中村豊 記)



## 59回 学年会

平成20年1月2日、ノボテル甲子園にて59回生の学年会を開催しました。関東方面では毎年のように開かれているようですが、関西では5年に一度、今回は卒業30周年ということで開催しました。

4回目の年男を経て50歳を目前にした働き盛り？の私たちですが、たちまち高校時代にタイムスリップ。昔話に花が咲きました。

各自スピーチでの近況報告。学生時代の夢をそのまま仕事・趣味にしている者から全く違う分野で頑張っている者、それぞれの楽しい話が披露されました。特に初参加の若林君の苦労話には大いに盛り上がり、あっという間に時間が過ぎ、再会を約束して散会しました。

参加者は、明里、荒井、乾(純)、岩崎(貢)、神谷(佳)、川田、河田、後藤、駒田、笹井、鷺見、高橋(大)、高松、竹内、田中(功)、辻川、中村、西峯、野草、羽生、林(正)、原田、藤井(謙)、古本、前田(章)、前田(倫)、松岡、丸山、宮地、村上、村川、森、安原(徹)、山口(裕)、山崎(正)、山本(昭)、山本(泰)、横井、吉川、米田、頼末、若林の42名でした。(竹内、古本 記)



## 62回 同窓会

去る1月2日午後、ノボテル甲子園鳴尾東の間において62回卒の同窓会を行いました。天候にも比較的恵まれ、当日の飛び入りを含め25名の参加を得る事ができました。今回は若干趣向を変えて女性フリーアナウンサーに司会をお願いして、新春らしい華やいだ雰囲気での会を進行しました。当日は山下先生にもご参加していただくことができ、母校やご自身の現状を、ユーモアを交えて楽しくお話いただきました。参加者それぞれにも現状や思い出を披露してもらい、終始笑いの絶えない楽しい会になりました。数時間は瞬く間に経過しましたが、引き続きの二次会にも多くの参加をいただき、再会を約束して散会しました。

なお、次回同期同窓会は、3年後を目途に日程や内容について今後、メールやミニ同窓会を通じ議論を行いたいと考えています。その他の連絡のために未だメールアドレスを登録していない方は、koyo@watase.infoまでご連絡をお願いします。(栗栖・渡瀬)



## 65回 同窓会

平成20年8月16日にノボテル甲子園にて3年ぶりの同窓会を開催しました。参加者は恩師を含めて45名でした。話は前年末にさかのぼります。

同期有志による忘年会の席上で「来年は同窓会がしたいね～」と誰かが提案。酔った勢いで「やろう、やろう」と即断即決。しかし、誰が言い出しっぺかも解らず「誰かが仕切るだろう・・・」と全員の思いは一致したまま時間が流れてGWも過ぎ・・・いよいよシャレにならない事態に関西在住組を中心に急遽「幹事団」を結成。実に慌しい開催となりました。

同窓会当日、受付で参加者名簿と欠席者のコメント集を配りました。出席者の中には実に卒業以来25年ぶり(!)というツワモノもいて、「誰や?このオッサン?」という有様。名札を頼りに「ひっさしぶり!」と旧交を温めました。恩師は松井義知先生、北畑健一先生、半田宣行先生がご出席くださいました。

さて、司会者はこの人を置いていないでしょう。田村和哉君。軽妙なトークはさすがです。開会早々、イキナリのヒートアップ。続いての開会挨拶は新理事の山根武夫君。乾杯は、あいうえお順で亀山貴彦君。続いて懇談タイム。会場はbuffet形式ですが食べるよりも、あちこちのテーブルで話の輪が広がっていました。

メインイベントは恩師ご挨拶。まずは半田先生。今年80歳との事ですが、まだまだお若い。数学の授業中、宿題を忘れて髪の毛を引っ張られたのを思い出しました。次は松井先生。相変わらず、素敵な声をしていらっしゃる。最後は北畑先生。今年還暦だそうですが、ちっとも見えない!若い!!

その次は一人ずつ近況報告。タイムテーブルでは一人1.5分の予定。しかーし!そんなじゃ足りない。皆、しゃべるしゃべる。司会者田村君のツッコミもさえまくりです。一人平均3分以上はしゃべってます。時間が押しに押し、さすがにホテル担当者も困っております。「21時までの約束ですが、ぎりぎり何時ですか?」「21時30分には退室してください」という訳で強制的に時間短縮。

最後は皆で「甲陽学院の歌」を斉唱。松井先生の指揮で、用意したピアノ伴奏テープを流しました。ここでハプニング発生!!

「テープ止めて!テンポが速すぎる!」なんと松井先生からダメ出し。アカペラで合唱となりました。でも、その方が良かった。久しぶりに、大きな声で歌う「甲陽学院の歌」感動しました。皆で記念撮影してお開き。会場の外では、話し足りない同級生達の輪、また輪。それぞれ、二次会へと消えて行きました。

今回の幹事団の皆さん、お疲れ様でした。皆さんのお蔭で、大過なく同窓会の開催にこぎつけることができました。落ち着いたら「反省会」をしましょうね。それと、2009年夏の会員総会は、私たち65回生にはホームカミングデーとなります。ぜひ参加しましょう。

なお、今回の同窓会を契機に「甲陽65回同窓会メーリングリスト」を立ち上げました。2008年11月末現在、約80名の同級生が参加しています。参加希望の方は、管理者:山下太郎宛にメールをくださいyamayama@cw02baine.jp。(山下太郎 記)



### 第3回 同窓会ゴルフ

第3回同窓会ゴルフは10月11日(土)心配された雨も降らず、爽やかな秋日和のもと、芦屋CCで7組26名の参加で行われました。

優勝は同クラブのメンバー篠田克郎氏(40回)でした。若田雄太郎氏(33回)は過去3回皆勤で東京三鷹市からの参加です。田村真也氏(36回)も淡路津名からの参加でした。知り合い同士の組み合わせは良くないのご批判も承知してありますが、年2回100を切れない面々が気の置けない仲間と戯れて頂くのも一興かと存じます。一緒に回りたい仲間と連名で申し込んで頂くこと大歓迎です。尚、敢えて土曜に開催する理由は、現役諸氏の参加を配慮しての事です。勿論、シニアチャンピオンやエージシュートを達成され、関西ゴルフ協会の理事長を永年勤められた、平田名誉会長を筆頭に、シングルプレーヤーが、会の支柱になって頂くことは当然の事であり、更に多くの参加を期待しております。

以上同窓会ゴルフご報告まで  
中村(35回)記



### サッカー部 初蹴り会

新春の恒例行事、サッカー部初蹴り会は、平成21年1月3日10時より、甲陽学院高校グラウンドにて開催されました。OB会長中村貞三氏の御挨拶をはじめとし、各先輩諸氏の御言葉を頂戴したあと、現役選手チーム対OBチームの対戦で試合を開始しました。その後、数々の熱戦をくりひろげ、サッカーを満喫して親睦を深めたあと、15時ごろに閉会しました。

来年もまた同様の日程にて開催される予定ですので、個々にお知らせすることは略させていただきます。日程を確認されたい場合は、インターネットにて、甲陽学院ホームページのなかで確認できるようになっております。奮って御参加ください。

サッカー部OB各位の御活躍をお祈り申し上げます。



### 第56回甲陽一灘サッカー定期戦

平成20年6月22日、灘高等学校グラウンドにおいて第56回サッカー定期戦がおこなわれました。好天のもと、中学校、高校、の順でおこない、中学校は2-0で甲陽学院、高校は0-1で灘が勝利しました。

ちなみに、第1回からの通算成績は、中学校22勝29敗5引分、高校23勝22敗9引分不明2となっています。

来年度は、甲陽学院グラウンドにて、可能ならば6月下旬ごろの日程で行いたいと考えています。OB戦は、例年12時ごろのキックオフとなりますが、ぜひとも多数のOB諸氏の御参加をお願い申し上げます。

(高等学校サッカー部 森本)



### 次回コンペご案内

- 1) 日時 平成21年4月11日(土)
  - 2) 会場 芦屋CC
  - 3) 申し込み締め切りは3月25日
  - 4) 申込先  
Tel&Fax 072-777-1009  
Eメール teisan@d4.dion.ne.jp (何れかで中村まで)
- 次回幹事 小野 晃(29回) 金山二生(32回)  
中村貞三(35回) 篠田勝郎(40回) 吉井友実(54回)

## 告 知 板

#### ☆ 同窓生の近著ご紹介 ☆

同窓会員の方から、最近出版された書籍をお知らせいただきましたので、紹介いたします。ご自身やお知り合いの方の著作物などをご紹介くだされば、検討の上、甲陽アーカイブスへの掲載も考えておりますので、よろしく願いいたします。

風見梢太郎(本名 下間一成(48回))  
『浜風受くる日々に』(新日本出版社)

母校甲陽学院高校を舞台にその高校生活を描いた新聞連載小説が単行本になりました。

#### ☆ ご注意!住所・電話番号の問い合わせ ☆

最近、「甲陽学院同窓会」や「甲陽高校事務室」の名前を騙り、同窓生の携帯番号や住所、メールアドレスなどを問い合わせる電話がかかっているようです。

現在、同窓会や母校でそのような調査活動をしている事実はありません。

皆様には、先方の名称・住所・電話番号などをご確認いただき、慎重な対処をお願いいたします。

#### ☆ 新卒者の終身会費制度 ☆

今年高校を卒業した90回生の皆さんは、卒業時点で終身会費を納めることを選択できます。詳細は、追って振込用紙同封の文書にてご案内いたします。

#### ☆ -お願い- 住所変更の届け ☆

- \* 会報の発行に際し、毎回・約100通に近い会報が転居先不明で戻ってきます。
- \* その都度、事務局で労力と時間をかけて、転居先の調査を行い再発送を行っています。事務局の確認作業にも限界があります。住居を移転された時は、忘れずに事務局まで住所移転の通知をお願いします。
- \* 各回卒の理事・評議員の皆様は、同期の方に住所・勤務先等の変更の連絡がありましたら、必ず事務局にも、ご連絡の程お願いを申し上げます。

長年にわたり同窓会の監事を務められました堀建二氏(17回)が、昨秋の叙勲で瑞宝双光章を受章されました。